

早春 (1956)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 144分
初公開日 1956/01/29
映倫 G

【解説】

小津安二郎が野田高梧とともに書いたシナリオを監督し映画化。不倫に揺れる昭和30年代のサラリーマン夫婦を描く。

蒲田に妻と住む杉山正二は、丸ノ内への通勤途中で知り合ったサラリーマンたちと仲良くなり、退社後に遊びに行くのが日課となっていた。妻は退屈な毎日から逃れるように、おでん屋を営む母の実家へ帰ったりしている。通勤仲間と出かけた江ノ島で、杉山は金子千代と接近。千代の誘惑に耐えきれず、関係を持ってしまう。二人の関係に気づいた杉山の妻は家出して、旧友のアパートに転がり込んだ。同僚の死をきっかけに、杉山は自分の生き方を振り返り、千代と別れようと考え始める。ちょうどその頃、会社で地方工場への転勤話が持ち上がった。

【クレジット】

監督 小津安二郎
製作 山内静夫
脚本 野田高梧
小津安二郎
撮影 厚田雄春
美術 浜田辰雄
衣裳 長島勇治
編集 浜村義康
音楽 斎藤高順
出演 淡島千景 杉山昌子
池部良 正二
高橋貞二 青木大造
岸恵子 金子千代
笠智衆 小野田喜一
山村聡 So Yamamura 河合豊
藤乃高子 青木テルミ
田浦正巳 北川幸一
杉村春子 田村たま子
浦辺条子 北川しげ
三宅邦子 河合雪子
東野英治郎 服部東吉
三井弘次 平山
加東大介 坂本

須賀不二夫	田辺
田中春男	野村
中北千枝子	富永栄
中村伸郎	荒川総務部長
永井達郎	田村精一郎
宮口精二	三浦勇三
長岡輝子	母さと
菅原通済	菅井のツーさん
山本和子	本田久子
諸角啓二郎	辻